

平成 20 年度 福井県立大学大学院
経済・経営学研究科博士前期課程
入学者選抜試験問題(第 1 次)
専門科目
経済理論・経営理論分野

以下の問 1 と問 2 から 1 問を選んで解答しなさい。

問 1 (経済理論) 以下の (1)、(2) の問に答えなさい。

- (1) 平均費用と限界費用との関係について述べなさい。
- (2) 貯蓄性向の上昇が雇用を減らすわけを説明しなさい。

問 2 (経営理論) 企業の現場で 3S(Standardization: 標準化・規格化、Simplification: 単純化・簡単化、Specialization: 専門化・専用化)といわれる活動は、20 世紀初頭にアメリカで工場改革運動を担ったテラー(F・W・テラー、1856~1915)や、フォードの自動車工場における実践に遡ることができる。

3S は、工場等の現場における作業方法の改善に関する知恵・ノウハウの一つでしかないように見られる。しかし、テラーが経営学の源流の一つに数えられ、フォードの経営実践も経営史において高く評価される所以は、企業経営において欠かせない効率追求の基本がこの 3S の中に入っているからに他ならない。したがって、3S の追求は、今日でも企業活動でその重要性を失うことはない。

しかし、効率追求の具体的なかたちは、時代状況が違えば、また違ってくる。同様に、3S 追求の具体的なかたちも、テラーやフォードが活躍した 20 世紀初頭の 1910 年代から 20 年代という産業化が発展途上の時代と、21 世紀の今日の知識経済化、グローバル化、モノあまりの成熟経済化、あるいは顧客優位等で特徴づけられる時代では大きく異なったものとなる。そこで、今日の時代において、3S の追求は、主要な産業(巨大製造業、小売チェーン企業、サービス業)でどのようなかたちであらわれているか、自らの知るところや自らの考えについて述べよ。